

南仏治安情報（4月分）

●テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

（1）マルセイユ発生、建設現場での爆発事件

3日の朝方、8区 Commandant-Rolland 通りにある戸建住宅建設現場で爆発が起こった。同所が6-8区役所から50mの地であったことや爆弾の作成方法がFLNC（コルシカ民族解放戦線）のものと似ていたことから色々な憶測がされており、施主がユダヤ系のビジネスマンであることから反ユダヤ主義団体による犯行説も浮上している。しかし現時点で真相は不明であり、地元警察が犯行グループ特定のため捜査中である。

（2）マルセイユ潜伏中ジハーディストの身柄確保

「テロ行為を企てる犯罪者集団」に属した罪でパリの重罪裁判所から有罪宣告（禁固7年）を受け、マルセイユ潜伏中の23歳男が、10日、巡回中の警察官に発見・逮捕された。この男はジハーディストとしてパキスタン・アフガニスタン地域に幾度も滞在経験があり、マルセイユにある自分のアパートを集団に提供し、国内でのテロ行為を計画していた。

●殺人（邦人被害なし）

（1）カンヌ発生、報復目的の殺人未遂事件

1日午後、Riou 地区の歩道上にて30歳の女が男性の胸部をナイフでめった刺しにて重傷を負わせる事件が発生した。被害者は1月にムージャンで発生した殺人事件で逮捕された男の兄弟であり、今回の女の犯行は1月の事件で友人を殺害されたことに対する報復行為であった。被害者男性は肺を貫通するほど胸を深く刺されていた。

（2）エロー県ロデブ発生、強姦殺人事件

6日の昼前、入居者7,000名の治療センター居住区敷地内において、暴行を受けた12歳の少女の遺体が発見された。後に逮捕された容疑者は、同じ入居者である16歳少年であった。

（3）ナルボンヌ発生、少女2名による親族殺人未遂事件（捜査結果の開示）

この度、3月末に13歳の少女2名が片方の弟6歳を殺害すべく、同児の背中をナイフで刺して重傷を負わせていたことが判明した。その後の捜査により、彼女らが同児だけでなく両親を殺害することも約束していたことも判明した。なお、本件犯行の遠因として、彼女らの愛読書であった日本のマンガ「JUDGE」（作者 外海良基）が挙げられており、彼女らがマンガの世界に没入し過ぎて現実との区別がつかなくなっているものと見られている。

(4) コルシカ島 Sartene 近郊発生、元FLNC構成員殺人事件

14日夕方、コルシカ島南部 Sartene 近郊の道路上で、車を運転していた元FLNC（コルシカ民族解放戦線）メンバーの58歳男性が何者かに射殺された。被害者は4日にも Sartene 市内で何者かの襲撃を受け負傷していた。警察は組織絡みの犯行とみて捜査を進めている。

(5) マルセイユ発生、出所後を狙ったとみられる殺人事件

3月24日、ランソン・プロヴァンスにあるA7高速道路料金所付近で出所したばかりの男性がカラシニコフ掃射により殺害されたが、4月14日にも同じくA7高速道路のエクス〜マルセイユ間で同様の殺人事件が発生した。今回の被害者は、麻薬組織幹部の男で、前回の事件同様、車に乗った覆面の複数名が被害者を銃撃している。警察は、前回事件を含めた被害者2名が3月24日に一緒に出所していたことに着目し、前回被害者は人違いで殺害された可能性もあるとして捜査を進めている。いずれにしても、本件は薬物絡みの対立抗争と見られる。

(6) マルセイユ発生、対立抗争とみられる殺人事件

24日の午前中、24歳の男性が14区にある自宅建物前で何者かに射殺された。被害者は犯罪組織に加わった罪で1年間服役し、本年2月に刑務所を出てきたばかりであった。被害者はまた2011年5月発生別の殺人事件の容疑者として司法当局の監視下にあったという背景もあり、本件は対立抗争による殺人事件とみられている。

(7) コルシカ島 Figari 近郊発生、殺人事件

28日、コルシカ島南部で同島本年6件目の殺人事件が発生した。被害者は犯罪歴のある54歳の男性で、スクーターを運転していたところを2人組の男らに射殺されたもの。

(8) マルセイユ発生、複数名による殺人事件

29日未明、15区 La Savine にあるアパートのホール内で、薬物犯歴のある30歳男性が複数名から銃撃を受け殺害された。被害者は頭部、胸部及び背面を計6カ所撃たれていた。本件は、マルセイユにおける今年6件目の対立抗争による殺人事件となった。

●強盗（邦人被害なし）

(1) マルセイユ発生、アパートを狙った侵入強盗事件

12日朝方、8区 Michelet にあるアパートの老夫婦居室内に顔を覆った3人組が押し入り、夫を殴り縛り上げ、部屋の中にあった現金を奪って逃走した。

(2) ラ・シオタ発生、侵入強盗事件（被疑者1名死亡）

19日深夜、自動式けん銃を持った2名の強盗が農家の敷地内に侵入した。しかし、家の中にいた48歳家主が飼い犬の鳴き声で異常を察知し、強盗犯が犬に発砲した音を聞くや自宅の猟銃を手に取り応戦、28歳の強盗犯1名を銃撃した。強盗犯は重傷を負い、共犯者はすぐに逃走した。なお、農家の家主については一旦逮捕されたが後に監察処分となり釈放された。

●傷害（邦人被害なし）

（1）マルセイユ発生、薬物絡みとみられる重傷傷害事件

10日深夜、9区のシテ La Cayolle 内で、19歳の少年が何者かに胸部等を数カ所刺され病院に搬送された。被害者には薬物密売の犯歴があることから、薬物絡みのトラブルが原因とみて捜査が進められている。

●薬物関連

（1）ニース～ブラジル間の麻薬輸送ルートの摘発

4月初旬、ニース司法警察はスペイン当局との協力の下、カナリア諸島で25kgのコカインを押収し、スペイン国内及びニースのシテ地区で関係者約15名を検挙した。

本件は、ブラジルとコート・ダジュールを結ぶ巡航客船を利用して麻薬輸送が行われているとの情報を掴んだのが発端。運び人らはニースから海路でモロッコに向かい、そこで受け取った大麻をブラジルまで運び、帰りはコカインをコート・ダジュールに持ち運んでいた。

（2）マルセイユにおける、コカイン入り木箱の発見・押収

11日、14区にある公共市場 Les Arnavaux に搬送されたバナナの入った木箱の中から、末端価格800万ユーロ相当のコカイン40kgが発見された。この積み荷は南米エクアドルから海路で輸送されてきたもので、通報を受けて臨場した司法警察がこれを押収し、荷受け会社から事情を聴取した。

（3）ニースにおける、イタリアンマフィア首魁の逮捕

15日、ニースでカモラ（ナポリ系マフィア）のボスが逮捕された。同人には2011年に欧州逮捕状が発行されており、イタリア治安官権にとって同人逮捕は優先事項であった。今回の逮捕はフランス憲兵隊とナポリのマフィア取締局との緊密な連携により実現した。今回の逮捕容疑は「麻薬取引目的の組織結成」罪であり、市内のレストランで逮捕された時には、殺人未遂で手配中の同人従兄弟も居合わせたことから、2名の身柄が伊当局に引き渡されることとなった。

(4) マルセイユにおける、薬物等の海路輸送集団の検挙

4月中旬、司法警察はマルセイユとコルシカ島アジャクシオを結ぶフェリーを利用して大麻や武器をマルセイユに密輸した容疑で関係者16名を逮捕し、逮捕現場で10kgの大麻を押収した。警察は同手口がこれまでも継続的に使われてきたとみて捜査している。

(5) BDR県ランソン・プロヴァンスにおける、大麻樹脂の押収（被疑者死亡）

27日の昼間、税関職員が高速道路の料金所で「ゴーファスト（高速車を用いた麻薬輸送）」を行っていた売人の運転するポルシェ・カイエンに対し職務質問をしようとしたところ、同車は停止せずに税関職員の車を追突し、そのまま逃走しようとした。そこで身の危険を感じた税関職員が運転手に発砲し、車を停止させた。運転手が死亡したことから税関職員は憲兵隊に身柄拘束されたが、状況的に正当防衛が認められる見通し。なお、車内には300kgの大麻樹脂が入っていた。

●その他特異事件（邦人被害なし）

(1) マルセイユにおける、爆発物の発見・除去

1日午後、機動隊が3区 La cite le Racati のビル内において爆発物を2つ発見・除去した。警察は今回の爆発物発見現場につき、テロ準備のための保管庫というより一般犯罪に使用する武器庫とみている。

(2) エクス発生、レシート悪用による銀行口座からの払い出し事件（判決）

エクサン・プロヴァンスのファーストフード店で客が残したレシートに記されていた情報を元に銀行カード番号を解析し、同口座を悪用して電子機器類をネット購入・転売していたグループが、4月上旬に銀行に対する詐欺容疑で有罪判決を受けた。本件でカード情報を抜き取られた客は100名に上った。

(3) BDR県 Allauch 発生、車上狙い事件（別件強盗事件被害品の窃取）

6日、警察の組織犯罪対策班が車上狙い犯人らを逮捕した。警察は同人らをマークしており、同日朝方、同人らがAllauchのカフェに寄った際、近くの駐車場に駐めてあった車の窓ガラスを割り、中にあったスーツケースを盗んだのを確認、追跡の末高速道路の料金所にて逮捕したものであった。本件が特異であったのは、犯人らが盗んだスーツケースの中にマルセイユやアヴィニョン等で発生した宝石強盗の被害品32,000ユーロ相当が入っていた点で、警察ではこれが偶然であったのか、車上狙い犯が宝石強盗犯の強奪品隠匿場所を知っていたのかにつき補充捜査を進めている。

(4) マルセイユ発生、病院待合室内における脅迫事件（被疑者の検挙）

10日、コンセプション病院の待合室にて、順番が巡ってくるのを我慢できなかった24歳の男がナイフを取り出し、病院職員を脅しつけた。駆けつけた警備員が男をなだめたため、暴力沙汰には発展しなかったが、男はその後警官に逮捕された。

(5) モンペリエ発生、警察の売春対策とホテル業界の反発

13日、モンペリエのホテル業界に州司法警察局が「不審な東欧出身の家族等が宿泊した場合通知されたい」とのメールを発信した。しかしホテル業界から「誤って無実の者を罪人として通告してしまう恐れがあるため受け入れられない」と反発を受けた。これに対し警察側は、売春を強制されている東欧出身者保護及び斡旋者取締りの意図があったと釈明した。

(6) マルセイユ発生、路上でのウィリー走行による業務上過失致死事件

16日午後、9区の道路上で2人乗りのオートバイが前輪を上げてウィリー走行をやろうとしたが失敗し2名とも転倒し1名が重傷を負った。さらに、暴走したバイクが歩道を通行中の40代女性に直撃し、女性は間もなく死亡した。マルセイユでは4月に入って以来、ウィリー走行による事故で既に4人が死亡している。

(7) マルセイユ発生、本年1～4月の空き巣被害件数

マルセイユでは、本年1月から4月までの4ヶ月間で226件空き巣（侵入窃盗）被害が発生した（1日あたり2件近くの割合で発生していることを意味する）。地域別で見ると、マルセイユ北部・中央部に比べ、南部地域で特に多く発生している。